

## 美(うま)し国おこし・三重さきもり塾

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：三重大学（総括責任者：内田 淳正）

## プロジェクトの概要

三重大学が中心となり、三重県地域の行政・企業・地域で主体的な防災・減災活動を行う「美(うま)し国・三重のさきもり」を養成する。養成コースとして「特別課程(旧さきもりコース)」と「入門コース(旧聴講コース)」を併設する。育成の対象は、①企業・行政の防災担当者、②地域住民、③各研究科修士課程在籍者で、「特別課程」では、履修生は全て新設科目の受講に加え、具体的な活動を通じた実践的な教育を受け、新設科目 10 単位の取得と研究成果報告書により、一方「入門コース」では新設科目の一部の履修により到達レベルを判断する。「特別課程」修了者は「美(うま)し国・三重のさきもり」に認定し、行政・企業・地域での防災・減災活動の企画立案・運営・教育啓発・実務を行い、「入門コース」修了者は「美(うま)し国・三重のさきもり補」に認定し、運営・実務を行う。期間終了後は大学と地域自治体が協働で本ユニットでの人材育成を継続し、修了者による交流・活動の場として NPO 法人を発展的に形成する。

## (1) 評価結果

総合評価	進捗状況	人材養成手法の妥当性	実施体制・自治体等との連携	人材養成ユニットの有効性	継続性・発展性の見通し
A	a	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

## (2) 評価コメント

巨大地震や風水害等の高い自然災害リスクがある地域の社会ニーズを解決する取組であり、自治体と密接に連携して、常に PDCA サイクルによる人材養成ユニットの改善やフィードバックを重ねながら実施してきたことは評価できる。養成人数も所期の目標を超えて達成し、県内各地域で活躍している人材を多く輩出している。東日本大震災以降、本プログラムの社会的意義は益々高まっているので、今後はその震災からの教訓・課題をカリキュラムに取り込み、より効果的なプログラムに充実・改善していくことを期待する。

- ・ **進捗状況**：三重県内各地域から数多くの受講者を確保し、特別課程と入門コースとも修了者数は目標人数を大きく超えて達成したことは評価できる。また、津波への対応をカリキュラムに反映するなど、採択時のコメントにも適切に対応している。今後は、県南など遠隔地からの受講生の受け入れを増やす工夫を期待する。
- ・ **人材養成手法の妥当性**：地震・台風等の防災・減災の地域ニーズを反映してカリキュラムを構成し、修了要件を明確に設定していること、また今回の東日本大震災や台風による情報を講義・演習内容へ反映するなど、人材養成手法として妥当である。e-ラーニングによる受講

生への補講支援システムの構築も評価できる。

- ・ **実施体制・自治体等との連携**：本人材養成ユニットの運営委員会が大学全体の取組に位置付けられるなど大学の支援は積極的に行われているとともに、県及び県内市町から運営委員や講師が派遣されているなど自治体等との連携も適切に行われていると評価できる。
- ・ **人材養成ユニットの有効性**：修了者は、行政・企業・地域において防災計画策定や防災啓蒙活動などに活躍するとともに、研修・講演会へ講師派遣の要請もあるなど、本ユニットは地域から評価されている。また、修了者ネットワークが構築されて活発な情報交換等が行われているので、今後も引き続き、大学の活動支援を継続していくことを期待する。
- ・ **継続性・発展性の見通し**：受講生から授業料徴収する仕組みを既に運用し、また、三重県とは事業の継続や県の防災教育を担う枠組化、及び資金計画なども検討中であり、継続性・発展性は期待できる。東海・東南海・南海地震を想定した広域エリアの防災のために広域的な連携を進め、本養成システムが波及・発展していくことを期待する。